

平成29年1月31日（火） 知事記者会見

知事

皆さん、おはようございます。

昨日は寒さがゆるんだ感がありましたけれども、今日はまた寒くなりました。

インフルエンザが全国的に猛威を振るっております。

県内でも学校での集団発生が多くなっているなど、インフルエンザに罹患している方が急増している状況にあります。

今後も感染拡大が懸念されますので、県民の皆さまには小まめな手洗いや、咳エチケットの励行、マスクの着用など、感染予防に心がけていただきますようお願いいたします。

それから火災ですけれども、先週は県内で建物火災が相次ぎました。お二人の方がお亡くなりになるという、火災があったわけでごさいます、ご冥福を心からお祈り申し上げます。火災により被害にあわれた皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

お二人がお亡くなりになった火災の原因は調査中ということですが、冬場は暖房器具の使用など、火気を使用する機会が多くなります。例年、ファンヒーターやストーブ、暖房兼用こんろなどが出火原因の火災が多く発生しているところです。ひとたび火災が発生しますと、人命や財産を失うなど大きな被害の恐れがありますので、火の取扱いにはくれぐれも注意していただきたいと思います。

それでは恒例となりました祭りやイベントのご紹介であります。

いよいよ今週、2月3日から5日までの3日間、本県雪祭りのオープニングを飾る、第2回「やまがた雪フェスティバル」が開催され、県内各地の雪祭りも順次行われます。

新庄市では、2月11日と12日に「第46回新庄雪まつり」が開催されます。巨大雪像の展示や、雪上運動会のほか、最上地域の食を一堂に集めた「新庄食楽市場（くらいちば）」も行われます。

また同日、米沢市では第40回となる「上杉雪灯籠まつり」が開催されます。松が岬公園一帯を主会場に、今年は207基の雪灯籠に明かりが灯され、会場は幻想的な雰囲気に包まれます。さらに新企画としまして、米沢城内に明治初期まであった隅櫓（すみやぐら）「御三階（おさんかい）」が雪を使って再現されます。

上山市では2月11日に江戸時代初期から伝わる民俗行事、「奇習(きしゅう) 加勢鳥(かせどり)」が行われます。“ケンダイ”という、蓑(みの)をかぶった若者たちに、手桶(ておけ)から祝い水をかけることで五穀豊穡や商売繁盛などを祈るものです。ぜひ、ご家族でおかけいただき、冬の山形をお楽しみいただきたいと思います。

では私から発表が2点ございます。まず1つ目です。「山形県民CO<sub>2</sub>削減価値創出事業」におけるCO<sub>2</sub>削減価値の購入者の募集についてお知らせいたします。

県では、今年度からこの事業に取り組んでおりますが、ご家庭などに設置された太陽光発

電設備等によって削減された温室効果ガスを県が集約して政府の J-クレジット制度を活用して県内外の企業等に販売するものであります。

去る 1 月 24 日に開催された政府の認証委員会で、昨年の 8 月から 10 月までの 3 か月間の太陽光発電設備による CO<sub>2</sub>削減量として、116t が認証されました。それで明日、2 月 1 日から 2 月 15 日までの 15 日間、購入者を募集いたします。

購入は最低 50 トンからで、どなたでも申込みことができます。販売により得られる収益は、県の環境保全活動への活用を予定しております。できるだけ多くの企業からのお申込みをお待ちしているところであります。

二つ目であります。国連世界観光機関（UNWTO）から、1 月 30 日付けで「国連世界観光会議」を来年度本県で開催することについて内定した旨の通知がありましたのでお知らせいたします。

この会議は、国連の専門機関であります世界観光機関が主催者となり、世界各国の観光関係者などが多数参加して、観光の世界的な地位向上、持続可能な観光開発の促進など、観光振興を目的として開催されるものであります。正式決定となれば石川、滋賀、兵庫、奈良に続き国内では 5 番目、東北では初めての開催となります。

会議内容は「雪と観光をテーマとした地域振興戦略等」が予定されており、開催の時期につきましては、テーマを勘案した場合、来シーズンの雪祭りの時期が想定されているとのことです。具体的な日程などにつきましては 3 月中旬と見込まれる正式決定手続きにより、明らかになる模様であります。

県としましては、国連世界観光会議が正式決定となるよう、UNWTO、世界観光機関に本県観光資源の情報提供や受入体制の整備に努めてまいります。

また、世界各国の観光関係者が集まるこの会議の開催を通して、世界に向けて本県および東北を PR しますとともに、雪を観光資源に活用する「スノー・ツーリズム」の舞台として雪国山形の魅力を発信し、インバウンドの更なる拡大に繋げてまいりたいと考えているところです。私からは以上であります。

#### ☆ 代表質問

記者

すみません、読売新聞の藤井と申します。どうぞよろしく申し上げます。今月の 10 日から特に豪雪だったと思うんですけども、県内の農業被害調査中だということだったのですが、その調査結果ですとか、その結果を受けた、その受け止めですとか、今後のその支援策など、ご方針をお伺いできたらと思ったのですが、よろしく申し上げます。

知事

はい、分かりました。まずは調査結果からまいりますけれども、大雪による農業被害は現在も調査を継続しております。県内の広い範囲でパイプハウスなど、農業施設の被害や果樹

の枝折れなどの発生が見られます。

昨日、30日の時点での被害状況について申し上げますと、農業施設ではパイプハウスの被害が406棟、果樹棚などの被害が57件となっております。また、果樹の枝折れなどの被害は、りんご、さくらんぼ、西洋なしなどで、88haとなっております。

あと受け止めや対策ということになります。まず、被害に遭われた農家の皆さまには心からお見舞いを申し上げます。営農意欲が失われないように、市町村や農業団体との連携を図りながら農家の方々に寄り添った対応をしていくことが必要だというふうに考えております。

これから積雪量が多くなる時期でありますので、今月の18日には「農業施設・農作物雪害防止キャラバン」を県内全域で実施し、被害の拡大防止に向けた対応などについて、巡回広報やチラシの配布を行ったところであります。ラジオやホームページでの注意喚起の取組みも進めております。

また、大雪による農業被害への対策としまして、近年では平成22年度や23年度に、県と市町村が協調して補助事業を実施したところでありますが、そのときは10億円を超える被害が発生しておりました。

今回の被害は、現時点ではそのような状況には至っていないと考えておりますが、枝折れなどは雪解けを待たないと分からないという状況もありますので、引き続き被害の把握を進めてまいりますとともに、今後の降雪の状況も注視しながら、必要な対策を検討していきたいというふうに思っております。

記者

すみません、では、被害額でいうと、現状だとどのぐらいなのでしょう。

知事

そうですね、粗々ということではしかお答えできないのかなと思っておりますけれども、粗々でも担当のほうから答えてもらいます。はい。

農林水産部次長

農林水産部次長の駒林でございます。

現時点での被害額でありますけれども、おおよそですけれども、今のところ2億3千万というような状況でございます。ただその枝折れとかですね、そういうところがまだ被害額確定しておりませんので、もう少し増えるのかなというふうに思っているところでございます。

☆ フリー質問

記者

NHKの足立と申します。よろしく申し上げます。

県立新庄病院の移転改築についてなのですけれども、この前、最上地域の首長の方々が知事に要望に来られたと思うのですけれども、今後のですね、その移転場所の決定とかですね、移転場所についての今の知事のお考えをお聞かせいただければと思います。

知事

ああ、そうですか。はい。

県立新庄病院というのは、最上地域に住んでいらっしゃる、8市町村あるわけですが、そこに住んでいらっしゃる方々のですね、医療の砦といいますか、本当に大きな支えになっているというふうに聞いているところです。

ですから、最上の皆さん方ですね、ご希望というものをしっかり聞いて考えていきたいなと思っていたところでありまして、やはり、この間、8市町村の首長さん方がいらしゃってご要望いただいたというのは、本当にしっかりと受け止めなければいけないというふうに思っているところです。

候補地、いくつかあるわけでありまして、本当にいろいろなことを考えながら検討しているわけでありまして、そのご要望というものもですね、しっかりと受け止めながら検討していきたいというふうに思っております。

記者

今、知事の当初予算案の査定、行われていると思うのですけれども、今後のその用地の取得というところで、当初予算案に入る予定というか、今のその知事のお考えというか、そこらへんもお伺いしたいのですけれども、いかがでしょうか。

知事

そうですね、その県立新庄病院のスケジュールといいますかですね、工程表みたいなものが、やはり病院事業局からですね、しっかりとお聞きをして、必要な予算を確保していきたいというふうに思っています。

記者

今のところ、当初予算案に入るかどうかというのは、まだ検討中という。

知事

ええ、今、まさに検討中であります。

記者

いつごろに決定されるご予定とか、いつごろまでに決定されたいとかという目途はありますか。

知事

予算ですか。

記者

予算というか、病院の用地の関係でということですからけれども。

知事

用地、そこに絞った関係ですと、担当、おりますでしょうか。工程表があるかなと思うので。

司会

来ておりません。

知事

ああ、そうですね。では後ほどでもよろしいでしょうか。

記者

わかりました。はい。ありがとうございます。

記者

TUYの鈴木です。よろしくお願いします。

教職員の不祥事が相次ぎまして、昨日、有識者会議も立ち上がりましたが、知事は教育委員もご経験で現場もよくおわかりだと思いますので、所感、具体的にはなぜなくなるのか、何か有効な手立てはあるのかも含めて、お考え、ちょっとお聞かせいただきたいのですが。

知事

そうですね。本当に悪質な内容の事件がですね、相次いだなという思いで、本当に県民の皆さんの信頼を裏切るような、本当にあるまじき行為だというふうに思っておりまして、本当に許されない行為ということが続出したということについては、大変遺憾に思っておりますし、また、教育委員会で法令遵守を徹底するということで、有識者の委員会をですね、しっかり作って、専門家のご意見もお伺いしながらしっかりと対策を立てていくということがありますので、やっぱりそこですね、しっかり今大事にして取り組んでいただきたいというふうに思っております。

どうしてそういう事件がなくなるのかとかですね、本当に根絶できないものかという

ようなことを思っておりますけれども、そこは本当にどうしていったらいいのかなという、いつもやっぱり大変な重い課題だなと思っております。

ただ、明日を担う子どもたちがですね、学ぶところが学校であるわけですので、そういったところでの教員の不祥事ということが、とにかくこう、なくなるようにと言いますか、発生しないように、継続的にしっかりと取り組んでいく、やっぱりそのことが一番大事なのかなというふうに思っております。

いろいろな段階があると思しますので、教員養成の段階とかですね、あと、採用とか、それから実際に教員になってからもいろいろな研修を通してとかですね、継続してしっかりと対策を立てていく。それで外部の目とかそういうものもですね、入れながら、たくさんの広域連携もしてですね、複眼的な視点で、内部だけではなくてやっぱり外部有識者の方々のご意見、お考えというものをしっかりと入れて、継続的に対策を立てて取り組んでいく、そのことが大事なのではないかなというふうに思っております。

本当に、教育界の中に身を置いている者の責任と自覚、そういったものを改めてしっかりと持ってですね、取り組んでいただきたいなというふうに思っております。

記者

複眼的外部の目ということは、その有識者の皆さんの意見も今後生かしながら、取り組んでいくという狙いですか。

知事

そうですね。はい。それは、やはり大事なところだなと思っております。

これまでは、何か起きるとやはりそういう会を作ったりということもあったかと思いますが、継続的にというのはなかったように聞いておりますので、今後継続的にしっかりと取り組むということをお聞きしておりますので、そこをですね、力を入れていただきたいなと思っております。はい。

記者

すいません、改めまして、読売です。

安倍総理とトランプ大統領の会談が2月10日に決定いたしまして、二国間交渉をやるとか、そういった話もありますけれども、山形県を代表して、安倍総理に対して、会談で求めたいことと言いますか、どういうことをちゃんと、主張してほしいとかっていう部分とかですね、その内容についてご希望される部分と言いますかですね、本県を代表した形でお言葉をいただければと思うのですけれども。

知事

そうですね、トランプ大統領が就任されて初めての直接お会いしての我が国の代表である

安倍総理とのですね、そういう会談になるわけでありましてけれども、本当にみんながその、新しく就任された方のですね、日本に対するこれからのさまざまな、何て言うのでしょうか、日本に対する政治的なその方向がどういうふうになっていくのかというのが、非常にこう全国的に、全国というのは山形県も含まれますので、ちょっと不安と言いますかですね、不安という言葉が適当なのかちょっとわからないのですけれども、どういうふうになっていくのか、ちょっと見通しが立っていないということがあるかと思えます。

ただ、やはり、何回もお会いする中で、それははっきりしてくるのだろうなと思っております。

やっぱり日本を代表する総理でありますので、国益というのでしょうか、やはり日本をしっかり守るといこともとても大事なことでないかなと思っております。

抽象的な表現になりますけれども、あまり具体的な内容はですね、その時に出るのか出ないのか、私ももちろんわかりませんので、やはり日本全体の国益を守るといことは、しっかりとお持ちになってくださると期待をしているところであります。

その中で山形県のことと言われましても、やっぱり今は、第一段階は、そこなのかなと思えます。

ただ、やっぱり山形県の知事としては、山形県に関係してくるようなことですね、不利益を被らないような方向でがんばっていただきたいなというふうに、これは、本音でありますし、切実な思いでもあります。はい。

記者

それは、今おっしゃったのは、不利益を、という部分で言うと、やっぱり基幹産業である農業を念頭におっしゃったということですかね。

知事

そうですね、私は基幹産業は工業で、基盤産業は農業だというふうに言っております、でも将来農業も基幹産業にしていきたいということをずっと言っているのですけれどもね。

やはり、農業も工業も大事な本県の県民の生業となっている産業でありますので、やはりどちらも大事であります。特に農業というのは、アメリカが農産物をですね、もっと日本に輸出というようなことで望んでこられますと、大変な影響を被ることになるのではないかと、いうふうに思いますので、その辺をしっかりと、首相に守っていただきたいというふうに思っていますね。はい。

記者

時事通信の梅崎です。よろしくお願ひします。

ちょっとトランプ大統領の関連で1点だけ。

先日、7か国からの入国を一時停止するという措置をトランプ大統領、取られましたけれ

ども、これについて同じ政治家としてどのようにお考えでしょうか。

知事

そうですね。アメリカという国は、本当に世界中から人が移入してと言いますか、それで発展していった国と言いますかね、そのような国だなと思っております。で、トランプ大統領になって、移民をね、受け入れないというような、もちろんトランプ大統領のお考えというものがあって、また、その彼を支持した人たちがいたから大統領に選出されたということになるかと思えます。

ですが、ものすごい反対の方々も多いということでもありますので、本当に正直、アメリカ自体がどうなっていくのかなというふうに思っています。

同じ政治家としてと言われますけれども、私のところの状況とですね、トランプさんとの状況はまったく違うというふうにも思っております。

ただ、本当にこう、正直、人道的にはどうなのかなという思いもあるわけでありましてけれども、ただ、テロ対策というようなこともあるかと思えますし、一概にですね、あれは良くないとか良いとか、そういう言葉ではっきりと言い切れるものでもないのかなと思っております。ただ、本当にいろいろなことをこれからどんどんおやりになって、それが世界的に似たような流れというようなことになってくると、どうもちょっとあまり穏やかでないような世界になっていくのではないかなと思えますとですね、ちょっと心配だなという思いがあります。